

は じ め に

本資料は、平成13年度～15年度に行われた「農業由来の有機質資源の循環利用に係る政策の評価手法の開発」の研究成果をとりまとめたものである。

循環型社会の構築に向けて、農業関連分野でも取り組むべきことは多いが、中でも重要なのは、農業由来の有機質資源の循環であろう。とくに畜産ふん尿については、従来、我が国で広範に循環的利用が行われてきた経緯があるだけに、その施策の評価についてはとくに求められるところである。法的には、1999年に家畜排せつ物法が制定され、以降各地で有機質資源循環の利用の取り組みが行われており、研究成果の活用が期待されるが、循環利用の評価については、明確に定式化されているとは未だいえない状況である。

本プロジェクトでは、政策の評価に主たる焦点を合わせ、「農業由来の有機質資源の循環利用に係る政策の評価手法の開発」、「有機質資源のリサイクル政策とその政策効果に関する研究」という2つの小課題に取り組んだ。前者では、廃棄物勘定の考え方を採用して、循環利用が行われる場合に環境評価が実行できる枠組みを検討し、市町村程度の小地域にあっても、ある程度の評価が可能であることを示した。さらに環境の経済評価については、その手法の精緻化についても検討した。

後者の課題では、まず循環利用政策のレビューを行い、農業関連分野での評価にとどまらず、循環型社会という、より広い視野での施策とその評価の必要性が示された。そしてつぎに具体的な施策として、各地で整備されているたい肥センターの実態を明らかにし、その経営の改善方向、環境改善の考え方の方向性を示した。

さらに最後に、以上の2課題をまとめる意味で、地域環境会計の構想を提示したが、循環利用の政策評価としては、個々で示された構想を具体的に実施するという課題が残されている。その意味で最終的な結論に到達したとはとても言えないが、研究で示された方法が、今後の循環利用政策に資すれば幸いである。

小樽商科大学の山本充助教授には廃棄物勘定について、また法政大学の西澤栄一郎助教授からは畜産ふん尿処理に対する諸外国の事情について、それぞれ貴重な情報提供をいただいた。筑波大学の西尾道德教授には、循環利用の背景をなす家畜ふん尿の農地還元に関して、自然科学的な見地から知見を整理して頂き、政策課題を提示頂いた。記して感謝したい。

平成16年3月

農林水産政策研究所